

新興帝国日本の国内統治、対外戦争、植民地支配に必須であつた地図作製
その全貌を明らかにする基礎資料をはじめて翻刻！

近代日本の測量、地図作製を担った陸軍参謀本部陸地測量部の沿革を活写、一九二二（大正一一）年に刊行された『陸地測量部沿革誌』。本書はその原稿である『陸地測量部沿革誌（稿本）』を、刊本との厳密な比較・検討を加えて翻刻。公刊時には伏せられた日清・日露戦争期の「外邦図」作製の状況、部内の人事、会計処理の顛末などが書き残された本書は、戦後の国土地理院につながる近代日本における地図製作・測量の歴史のみならず、対外戦争、国土開発、陸軍組織の裏面を伝える。外地における秘密測量の実態を関係者が赤裸々に語る「外邦測量の沿革に關する座談會」を附して、ついに刊行。

陸地測量部沿革誌（稿本）

解説 小林 茂（大阪大学名誉教授）

◎体裁 A5版・上製・約400頁
◎収録資料 『陸地測量部沿革誌（稿本）』

「外邦測量の沿革に關する座談會」

一九一六（大正五）年
一九三六（昭和一一）年

◎定価 35,200円（本体32,000円＋税10%）
◎刊行 2024年10月

ISBN 978-4-8350-8663-7 C3031

不二出版

▲写真は初代陸地測量部部长・小菅智淵
（『陸地測量部要覧』1926年より）。

二〇三高地から望む旅順港（陸地測量部撮影。大本
營寫眞班『日露戦役寫眞帖 第三軍』1906年より）

刊行にあたって

陸地測量部は、一八八八（明治二一）年に陸軍参謀本部から測量局が分離独立して発足した機関で、明治期から終戦まで日本国内外の測量ならびに地図の製図と印刷を行っていた。その主な業務は戦後、地理調査所、さらに国土地理院に継承され、今日に至っている。同組織の沿革、活動内容を示すほとんど唯一のものとして、『陸地測量部沿革誌』が「正篇」（一九三二年）、「終篇」（一九三〇年）、「終末篇」（一九四八年）として刊行され、二〇一三年に小社から復刻された。

今回発見された『陸地測量部沿革誌（稿本）』は、「正篇」を刊行するために準備された原稿である。明治初頭から明治三九（一九〇六）年までを範囲とするもので、刊行時には記述が落とされてしまった「外邦図」の作製に触れるだけでなく、主要な法律や規則、部内の人事や会計を詳述。地図作製技術者の集団であった陸地測量部自身が残した内部資料として、その活動の理解に大きな意義をもつといえる。

原資料が手書き原稿ということもあり、刊行にあたっては全文を翻刻し、読みやすさを確保した。さらに公刊された『陸地測量部沿革誌』の記述と比較し、削除、変更がなされた部分をゴシック体、注記によって示した。加えて用語や人物などについては、小林茂による詳細な注を附した。第Ⅱ部に収録した「外邦測量の沿革に関する座談会」は、一九三六（昭和一一）年に日露戦争期の測量技術者を集めて開催されたもので、初期の測量技術ばかりでなく、現地住民との交渉が記されるなど、他では得難い内容となっている。また、巻末に附された事項・人名索引のうち、特に人名索引は、陸地測量部に関わった多くの人物を総覧するものとして活用が期待される。軍事史、外交史研究はもとより、戦後の国土地理院につながる近代日本における測量・地図の歴史を一望するために、不可欠の史料といえるだろう。

本書の特色

1. 第Ⅰ部『陸地測量部沿革誌（稿本）』は、公刊された『陸地測量部沿革史』との綿密な比較を経て欠落などを明示、注記を附して全文を翻刻、収録！

2. 秘密測量の実情などを赤裸々に語る『外邦測量の沿革に関する座談会』を、影印版の復刻により第Ⅱ部に収録。測量史の裏面を伝える。

3. 陸地測量部に関わった人物が一望できる400名超の人名索引を附す。

4. 小社既刊『陸地測量部沿革誌』（全1巻・付録CD1枚）、『外邦測量沿革史 草稿』（全4冊・別冊1）、『研究蒐録 地図』（全3冊）と併せることで、陸地測量部の全体像が明らかに！

二 陸地測量部沿革史(稿本) 復刻

シモ今面ノ事件終了後ハ仮令密行等ノ手段ニ依リ測図スルモ是又容易ノ事業ニ無之此際當部ニ於テ一ツノ臨時測図部ヲ編制セラレ之ヲ大本營ノ管轄ニ付シ最簡易ナル測図式ニ依リ我軍陣ノ占領セシ作戦經過ノ地形ヲ測図シシメ他日ノ資料ニ備ヘ置クノ必要ナルコトヲ具陳シ編制表設測図手続員ノ募集及其教育其他經費等ニ関スル意見ヲ上申シ十一月二十一日之ヲ總評セラレ同月二十四日『臨時測図部測図手続資格例及志願者心得』ヲ發表シテ一般ヨリ測図手ヲ募集シ二百二十名ヲ採用シ十二月五日『臨時測図部服務規則』ヲ定メラレ十二月十五日臨時測図部長トシテ地形科長工兵中佐岡田定雄、同副官トシテ歩兵大尉勝田敏郎、班長トシテ歩兵大尉依田正忠、全服部直彦、全菊池和太郎ノ任命アリ其他陸地測量師六名陸地測量手六十八名及ヒ義二募集シタル測図手ハ若干教養ノ上ニ之ニ陸軍軍ヲ命シ臨時測図部ニ属セシメラレ茲ニ臨時測図部ノ編制（附表第一）成立シ諸々諸準備ヲ完ウシ翌二十八年二月三日ヨリ順次戦地ニ向ヒ出發セリ而シテ此ノ最初ノ戦時測図ノ大綱トシテ主要ナル地点ノ経緯度（大陸南中法及恒星高度法）ヲ定メ之ニ準據シ小測板測斜照準備ヲ用ヒテ地形図根点ヲ組成シ此ノ根点ニ依據シ携帯図板ヲ用ヒテ碎部測図ヲ施行スルニアリシナリ（附表第二）

其他此二十七八年戦役ニ関シ當部武官ノ出張スルモノ十八名測量官ノ各戦時部

▲第Ⅰ部 二『陸地測量部沿革誌（稿本）』翻刻見本日清戦争時の臨時測図部編成の様子と編成表。公刊本では削除された箇所をゴシック体、記述が変化した箇所を注記によって示している。

中榮 セウセウ、アノ時ハ半分ヘバツタネ。
野坂 セウセウ君ト出遭ツテ寒クテ仕様ガナイノデ支那兵ノ寒テ居ツタ
毛皮ヲ剥イデアレ被ツテ行ツタ。ソレカラ麓ノ入口ニ行ツタ所ガ
支那人ガ二三人居ツタ茶ヲ沸シテ居ツタノデ、其湯ヲ分ケテ貰ツタ君
カラ湯ヲ貰ツタ所カガ利ケルヤウニナツタ。ソレカラ二三日シテ
十一月二十四日順カラ意欲順方面ノ測量ニ掛ツタ。
杉部 アノ邊ハスツカリヤツタネ。
野坂 ソレカラ二百三高地ナンカモ其當時測量シタゲタネ。
中榮 一番初メニ二百三トイフ標高ヲ取ツタノハ吾々ナゲタ。
野坂 新市街ノ地ヲ君ト（杉部氏ニ）二人デ測量シテ居ツタ時ニチヤ
ンコノ死体ガアツタガ、君ガ不幸ナ奴ダト言ツテ腹ヲボント蹴ツタ
ラコソトイフ番ガシタ。ソレデ腹ヲ割ツテ見タラ馬鹿振リ香ンデ居ツ
タ。是ハウマイモノガアツタトイフノデ二人デ分ケテコトガアツタネ
。所ガ人夫ガソレニ味ヲ占メテ死体ヲ見ル度毎ニ腹ヲ開クテ見ルンデ
ス。是ニハ弱リマシタネ。ソレカラソコ終ヘマシツカラ一旦金州ヘ

(27) 二百三高地ナンカモ其當時測量シタゲタネ（椅子山）図幅（二万分一）「旅順口近傍圖」第六号「アジア歴史資料センター」資料、C330146700 および「明治二十七八年日清戦史 附圖 第五」旅順口戦開圖「参謀本部編一九〇四 参照」

『陸地測量部沿革誌』
編纂の道程探究に

『陸地測量部沿革誌（稿本）』は完成版である『陸地測量部沿革誌』の第一―三編、時期としては明治初年から明治三十九年の部分に重なる原稿である。『陸地測量部沿革誌』は明治期から昭和前期にかけて国の測量・地図作成機関であった陸地測量部が編集・刊行した経年の事業についての公式の記録で、陸地測量部創設以前にあたる明治初期の関連諸活動をも含む、日本近代の測量・地図の歴史の主幹部分に関する基本文献である。『正篇』にあたる第一―五編が一九二一（大正一）年、『終篇』（第六編）が一九三〇（昭和五）年に刊行され、さらに『終篇』以後一九四〇（昭和一五）年までの時期について元陸地測量部の高木菊三郎が私家版としてまとめた『終末篇』がある。これらは同じ不二出版によってすでに復刻されている。

今回、復刻される「稿本」は内容、来歴ともに注目すべき資料である。原本は初代陸地測量部長小菅智淵の家系に伝わるものという。緒言で「脱稿」とほぼ完成をうたう「稿本」だが、完成した「沿革誌」では、文面の大部分は一致しているものの、語句の修正にとどまらず、一定の記述過程の削除と簡略化など、少なからぬ改稿が加えられている。編集の過程をのぞかせる「稿本」の価値は大きい。削除は主として業務や規定の新設・更改につながる判断や評価、背景などと、外邦測量についての記述で、簡略化は関係法規や人事記録などにおよぶ。このうち外邦測量の削除は別冊化というあらたな方針による。ただし正式な別冊の刊行には至っていない。こうした改稿により、現場の動きや各方面とのつながりなどは背後に後退している。複雑な経過をたどる外邦測量の扱いについては、本書の解説にゆずるとして、これら概略の特性から「稿本」が「陸地測量部沿革誌」などとあわせて、日本の近代測量・地図事業のより深い研究に不可欠な資料であることは確かである。

版面にも工夫があり、前記の削除、簡略化、修正部分はフォント・傍線・注記によつて全て明示されている。両書とも現在はネット上でも閲覧できるが、その場で異同を確認できる便宜は大きい。外邦測量研究の泰斗小林茂氏による、両書の綿密な照合作業を土台に、外邦測量などいくつかの例を手がかりとする解説も、「稿本」のみならず「沿革誌」のなりたちを詳述した必読の資料である。

明治期は日本の測量・地図の歴史にとつて顕著な画期であつた。その中核を担つた陸地測量部の活動解明を進めるための必備の資料として本書を推薦する。

(すずき　じゅんこ)

田中宏巳
(防衛大学校名誉教授)

これまでに『外邦測量沿革史 草稿』、『陸地測量沿革誌』を不二出版から復刻された小林茂先生は、この度の『陸地測量部沿革誌（稿本）』で、測量沿革の諸原稿の来歴や性格等すべてについてまとめ上げられたことになる。史実を記録した文書史料にも歴史があり、史料に検討を加えて、その来歴、性格、特徴、留意点等を明らかにする作業を史料批判と呼ぶが、歴史学では、研究活動の大半を史料批判に費やす例もあるほど重視されている。外邦図研究の一環として陸地測量部の沿革に踏み込まれた先生も、史料批判の難題に否応なく直面されたが、歴史学の専門家でも遠く及ばないすぐれた成果を上げられた。

本書で注目されるのは、昭和十一年に行われた外邦測量沿革に関する座談会記録の収録である。日露戦争二十五周年（昭和四十五年）、三十周年（同九十年）に、新聞社が中心となつて、功成り名遂げた将軍達による座談会を企画し、数多の埋もれた挿話を発掘し巷間にブームを起こしたが、外邦測量の座談会も、こうした流行に接触されたのかもしれない。最近まで研究者の世界では、オーラルヒストリーに対する理解が遅れ、文書史料に偏重し口語史料を軽視する傾向があったが、座談記録を史料として敢えて収録された先生の英断に敬意を表したい。

『陸地測量部沿革誌（稿本）』は、前編と後編の二部構成で、「前編上」は明治初期から同十七年八月まで、「前編下」は十七年九月から二十一年五月までの揺籃期を扱っている。活動対象は国内に限られ、欧米列強から最新の地図情報入手し、組織制度を含めた基盤整備に邁進した時期である。「後編第一」は二十一年五月から二十二年四月まで、「後編第二」は明治二十二年六月から三十九年までを対象とし、日本が大陸へと踏み出した日露戦争直後までをカバーしている。国家意思を体現し、対外進出の最先鋒に立つ外邦測量は、複雑な内外情勢とも直結していたことから、未知の史実を内在している可能性が大きい。ここでも小林先生は関係史料と照合し、最後まで史料批判をゆるがせにしない研究姿勢を貫かれている。（たなか ひろみ）

209

背景は旅順口近傍圖第六號「椅子山」(1895年作成、小山史料、防衛研究所所蔵)

陸地測量部沿革誌(稿本)

◎解 説 小林 茂 (大阪大学名誉教授)

「『陸地測量部沿革誌(稿本)』の来歴と構成」

「『外邦測量の沿革に關する座談會』の記録・解説」

◎収録資料 Ⅱ 「陸地測量部沿革誌(稿本)」

一九一六(大正五)年

「外邦測量の沿革に關する座談會」

一九三六(昭和一一)年

◎体 裁 Ⅱ A5判・上製・約400頁

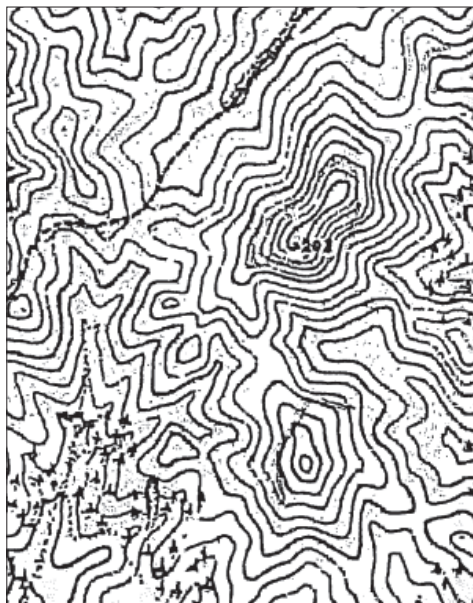
◎定 価 Ⅱ 35,200円(本体32,000円+税10%)

ISBN 978-4-8350-8663-7 C3031

◎刊 行 Ⅱ 2024年10月

◎推 薦 Ⅱ 田中宏巳 (防衛大学校名誉教授)

鈴木純子 (元国立国会図書館地図室室長)



▲旅順は日露戦争の激戦地であり、要塞を一望できる「二〇三高地」の攻略は日本軍を優位に立たせたとされる。同地は日清戦争時にも戦場となり、その際に陸地測量部員によって「二〇三高地」の標高が計測されたことが、「外邦測量の沿革に關する座談會」で苦労話と合わせて誇らしげに言及されている。「二〇三高地」は上図の中央右。

陸地測量部 関連図書のご案内

〔復刻版〕 陸地測量部沿革誌

全1巻・付録CD1枚

◎体 裁 Ⅱ A5判・上製本・函入・約570頁

◎解 説 Ⅱ 小林 茂 (大阪大学名誉教授)

◎収録資料 Ⅱ 「陸地測量部沿革史(第一編〜第五編)」

「陸地測量部沿革部沿革誌 終篇」

「陸地測量部沿革誌 終末篇」

◎定 価 Ⅱ 30,800円(本体28,000円+税10%)

ISBN 978-4-8350-7411-5

陸地測量部の沿革を明治から昭和戦前期の全期間にわたって活写した、近代日本測量史研究の基礎資料。『陸地測量部沿革誌(稿本)』は本書の明治初頭〜明治三九(一九〇六)年分の原稿であり、両書の比較によって公刊の際に削られた内容が明らかになる。

〔復刻版〕 外邦測量沿革史 草稿

十五年戦争極秘資料集 補巻30

全4冊・別冊1

◎体 裁 Ⅱ A4判・4面付・上製・函入・総1,310頁

◎別 冊 Ⅱ 解説(小林 茂)・総目次

◎揃定 価 Ⅱ 124,300円

(揃本体113,000円+税10%)

近隣アジア諸地域の地形図作成にむけて日清戦争を機に開始された陸地測量部関係者の外邦図作製の記録。現地での具体的な活動の様子が描かれており、『陸地測量部沿革誌(稿本)』と合わせて、秘密測量の全体像―具体像が明らかに。

〔復刻版〕 研究蒐録 地図 全3冊

十五年戦争極秘資料集 補巻38

◎解説・総目次・執筆者索引付

◎体 裁 Ⅱ B5判・上製・函入・総1,580頁

◎解 説 Ⅱ 小林 茂・渡辺理絵

◎揃定 価 Ⅱ 本体59,400円

(揃本体54,000円+税10%)

陸地測量部の部内誌である本誌は、一九四三年一月から刊行され、中国、東南アジア諸地域の測量事情を収載している。アジア・太平洋戦争期において広範な地域に展開した測量部隊の活動を示す基礎資料である。

表示価格はすべて税込

不二出版

〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 0016002940084